

高等学校第1学年 国語総合 学習指導案

期 日 平成22年9月13日（月）第2校時
場 所 熊本県立鹿本農業高等学校 1H教室
指導者 教諭 葉玉 敦子

1 単元名

「古典に学ぶ 故事成語」（三省堂 明解国語総合）

2 単元について

- (1) 私たちが普段使用する言葉には、漢語が多数含まれている。しかし、それらを、漢語だと意識して使うことは少ない。そこで、生徒たちにもなじみのある格言や故事成語を用いて、漢文の基本的な知識を得させ、比較的平易な文章を読んで理解させることで、日本語の認識を深めさせる。
- (2) 本単元の系統は次のとおりである。
中学校で学んだことを基にして、1学期に漢文を読むためのきまり（返り点など）を学び、実際に数句の格言を使って、読む練習をしている。今回は、それらを踏まえ、文章を読み、内容を理解することを目的とする。
- (3) 本単元に係る生徒の実態は次のとおりである。
 - 4月に行われた新入生テストの結果から、現代文よりも古典の正答率が低く、古典が苦手な生徒が多いという傾向がうかがえる。
 - 「国語は好きか」という質問に対してクラスの85%の生徒が「好き」もしくは「まあまあ好き」と答えている。しかし古典に関しては、苦手意識がある生徒が多く、「なぜ古典を勉強するのか」という疑問を持つ生徒もいる。
 - 古典に苦手意識がある生徒が多いが、音読をする時には、とてもよく声を出すことができる。
 - 教育上特別な支援を必要とする生徒（一人）についての実態は次のとおりである。
 - ・板書事項をノートに写すことに時間がかかる。そのため、教師の説明や、他の生徒の発表や意見を聞く余裕がない。
 - ・文章を読んだり、他者の意見を聞いたりして、自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりすることが苦手である。他者から声をかけられると受け答えができるが、自分から話しかけることは苦手である。
- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。
 - 漢文独特のリズムを体感するため、返り点に従って本文を読み、一斉読みやペア読みをして、何度も繰り返し本文を音読する。
 - 文章の内容を確かめながら、文章を読むように指示する。
 - 視覚的な情報提示として、故事成語の様子を表す吹き出し入りの挿絵を活用する。
 - 多様な学習形態（一人、グループ、全体）や言語活動（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）をバランスよく1単位時間の中に組み込む。
 - 机間指導による生徒との一対一の対話を通して、考えを引き出すようにする。
 - グループでの学習を取り入れる。主体的に学習できるように生徒一人一人の役割を明確にする。その中で教育上特別な支援を必要とする生徒に対しては次のような配慮を行う。
 - ・日頃からかわりのある生徒とグループ編成をする。
 - ・机間指導により苦手な面への支援を行う。
 - ・全体での発表の機会を与える。グループ内での発表から全体での発表へとスモールステップで学習を進め、自信が持てるようにする。
 - 故事成語への興味・関心や学習への意欲を高めるために、挿絵を活用する。また、故事成語と現代の生活との接点を考える場を持つ。
 - 生徒が授業に見通しが持てるように、めあてを板書して明確に示す。また、授業の流れと時間配分をあらかじめ用意した短冊を提示して説明する。
 - 授業の終末に、記述による学習の振り返りを行う。
 - 板書は、教育上特別な支援を必要とする生徒に配慮して、内容を精選し、量を必要最少限にする。
 - 生徒の実態に配慮したワークシートを作成し、使用する。

思考力、判断力、表現力等と言語活動（特別支援教育の視点から）

教育上特別な支援を必要とする生徒の実態や特性に配慮して、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことなどの基本的な言語活動を重視した、生徒にとって「分かる授業」づくりを行う。このような「分かる授業」の実践を通して、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○漢文独特のリズムに注意しながら音読し、書き手の意図や主張をとらえながら、文章を読む。 ○漢文の訓読のきまりについて理解する。
国語への 関心・意欲・態度	○漢文独特のリズムに注意しながら、音読しようとしている。
読む能力	○書き手の意図や主張をとらえながら、文章を読んでいる。
知識・理解	○漢文の訓読に必要な、返り点などのきまりを理解している。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時8／8）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目 (方 法)
1	1	○返り点の説明を聞き、用法を理解する。	・全員が確実に理解できるよう、机間指導をする。	【知識・理解】 返り点とは何かを知り、そのきまりを理解することができる。 (行動の観察)
	2	○返り点の用法を理解し、問題を解く。(その1)	・前時の内容を思い出しながら解くよう指示する。	【知識・理解】 学んだことを用いて、問題を解くことができる。(行動の観察、記述の点検)
	3	○返り点の用法を理解し、問題を解く。(その2) ○文章を音読する。	・教科書に載っている実際の文章を、返り点のきまりに従って読むことができるようにする。	【関心・意欲・態度】 読み方が分かった文章を音読しようとしている。(行動の観察)
2	4	○送りがなや書き下し文を理解する。 ○「虎の威を借る」の口語訳を確認する。	・全員が確実に理解できるよう、机間指導をする。	【知識・理解】 送りがなや書き下し文とは何かを知り、そのきまりを理解することができる。(行動の観察、記述の点検)
	5	○「虎の威を借る」の文法事項を確認する。 ○文章を音読する。	・「置き字」などの用法を、例題を通して理解できるようにする。	【関心・意欲・態度】 ひと通り説明した後、プリントで各自確認しようとしている。(行動の観察)
	6	○「虎の威を借る」前半の内容を読み取る。 ○文章を音読する。	・虎と狐のやりとりから、「天帝の命」が大きな意味を持つことに気付くことができるようにする。	【読む能力】 後半に続くポイントを読み取るすることができる。(行動の観察、記述の点検)
	7	○「虎の威を借る」後半の内容を読み取る。 ○文章を音読する。	・虎と狐の、それぞれの思いを的確に読み取るようにする。	【読む能力】【知識・理解】 前時に学んだことを生かし、内容を理解することができる。(行動の観察、記述の点検)
	8 本時	○「虎の威を借る」の全体を通して、故事成語の意味を考える。 ○文章を音読する。	・内容を振り返り、何を言いたい文章なのかを理解できるようにする。	【読む能力】 全体の内容から、書き手の意図を読み取るすることができる。(行動の観察、記述の点検)

5 本時の学習

- (1) 目標 「虎の威を借る」の文章全体を振り返り、故事成語の意味を理解することができる。
 <教育上特別な支援を必要とする生徒の目標>
 ○ 書くことに抵抗を感じることなく学習に参加できる。
 ○ 主体的にグループ学習に参加できる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	教師の指導及び評価	対象生徒に対する指導の手だて	備考
導入 10分	<p>※学習内容の説明</p> <p>1 前時までの復習をする。</p> <p>(1) 本文を音読する。</p> <p>(2) 前時の内容を振り返る。【一斉】</p>	<p>○本時の学習の流れを示す。</p> <p>○声を出して読むように指示する。</p> <p>○前時までの学習シートを振り返ることで、ポイントとなる部分を確認する。</p>	<p>○本時の見通しを持たせる。</p> <p>○書き下し文を見ながら読んでよいことを伝える。</p> <p>○ノートや学習シートを見て、振り返りを行っているか確認する。</p>	教科書 ノート シート 挿絵
展開 35分	<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>3 故事成語の意味を考える。</p> <p>(1) 故事成語の意味を考え、シートに記述する。【個人】</p> <p>(2) 故事成語の意味について話し合い、確かめる。</p> <p>①記述した内容を出し合う。</p> <p>②考えをまとめる。</p> <p>③辞書で確かめ、正しい意味をシートに記述する。【グループ】</p> <p>④全体で意味を確認する。【一斉】</p> <p>(3) 身近な場面での「虎の威を借る」例をグループで出し合い、全員で共有する。【グループ→一斉】</p>	<p>「虎の威を借る」とは、どういう意味で使われる故事成語だろう。</p> <p>※めあてを学習シートに記述させる。</p> <p>※学習の流れと各活動の目安の時間を簡潔に示す。</p> <p>○前時までの学習内容を振り返りながら、記述するよう助言する。</p> <p>○グループでの話し合いの手順や役割分担について、板書で指示をして、見通しを持たせる。</p> <p>○自分たちで考えた意味と辞書に書かれている意味を比較させる。</p> <p>○全体での確認を行うことで、故事成語の意味を確実におさえるとともに、次の活動内容の指示を明確に行う。</p> <p>○マンガの場面などでもよいことを伝える。</p> <p>○意見が出ていない状況があれば例を示す。</p> <p>○いくつかの意見について発表を促す。</p> <p>評価 B：故事成語の意味が理解できたか【記述内容】 A：身近な場面での例と関連付けて意味を理解できたか【観察、シートの記述】</p> <p>○感想を記述することで、意味理解の度合いを把握する。感想について発表を促し、互いに確認し合う。</p> <p>※「感想は3行以上書くこと」という注意点を板書する。</p>	<p>○机間指導をしながら、記述の状況を確認する。困難さを感じている様子が見られる場合は、これまでのシート等を基に助言する。</p> <p>○役割を与えることで話し合いに主体的に参加できるようにする。</p> <p>○自分の役割をしながら話し合いに参加できているかを、机間指導をしながら確認し、助言する。</p> <p>○辞書の意味内容を書き写すのに時間がかかる場合は、すでに書いている生徒に見せてもらうように指示する。</p> <p>○グループでの話し合いでの状況を観察し、必要な場合は助言する。</p>	学習シート
終末 5分	<p>4 学習したことの感想をまとめ、発表する。【個人→一斉】</p>	<p>○感想を記述することで、意味理解の度合いを把握する。感想について発表を促し、互いに確認し合う。</p> <p>※「感想は3行以上書くこと」という注意点を板書する。</p>	<p>○記述に困難さを感じている場合は、量が少なくてもよいことを伝える。</p> <p>評価 ○書くことに抵抗を感じることなく学習に参加できる【観察】 ○自分の役割を果たしながら、話し合いに参加できる【観察】</p>	